

# 羅針盤-卒業記念号-

# COMPASS

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

第134号 2022.3.12(土)発行

教職をめざす学生・卒業生のために

関西外国語大学

教職教育センター

## お祝いの言葉「卒業・進級おめでとう」

教職にかかわる先生方より、みなさんへお言葉をいただきました。  
今日のハシの日にみなさんへ。



短期大学部 教授 明石一朗



新型コロナウイルスの影響で、「当たり前」の日常生活が過ごせない環境の中、学業にメリハリをつけ、授業と試験勉強を両立することに励んできたことと思います。何ごとも「諦めなければ必ず結果はついてくる」と信じて努力することが大切です。

教育の目的は、子どもの「人格の完成をめざす」ことですが、その教育を担う教員に求められる資質能力は、①豊かな人間性②実践的な専門性③開かれた社会性です。では、具体的にはどういうことでしょうか。例えば、

- ・一人の社会人として社会的常識が備わり人間味がある
- ・教育に対する情熱に溢れ、専門的知識が豊かで指導力がある
- ・子どもの気持ちや感情を敏感に感じ取りコミュニケーション力が高い

などでしょうか。

子どもにとって「明るく元気で、優しくも厳しく、誰にも公平で、知的な先生」が理想です。子どもは「自分を好きになってくれる先生」が好きです。教育の基本は「子どもが好き」ということではないかと思えます。あなたは、「子どもが好きですか？」

実際は、「子どもが好き」なだけでは教員の仕事は務まらないのですが、まずは、「子どもが好き」という「愛情」が出発であると思えます。

毎朝、恋人に会うような気持ちで、胸弾ませて学校に行くのが教員であるのです。私がかつて受け持った子どもたちの好きな先生のベスト5は、以下のようでした。

- ① ユーモアがある
- ② 親しみやすい
- ③ やさしくもあり、時にきびしい
- ④ 教え方が上手
- ⑤ 相談にのってくれる



現在、学校現場は多くのベテラン教員が退職し、若い教員の激増期をむかえています。教員の使命感と情熱・専門性に加えて、豊かな人間性が求められています。子どもにとって、最大の教育環境は「先生の存在」であることを自覚して、みなさんの好奇心と探究心が子どもの夢や希望を育むような「授業がうまくて、人間味にあふれる先生」になってください。

最後に、オーストリアの著名な動物学者であるコンラート・ローレンツ博士の言葉を紹介します。「人は、自分の好きな人、しかも信頼し尊敬する人からのみ文化・伝統を受け継ぐことができる」。



「人間にしかできないこと、あなたにしかできないこと」

外国語学部 教授 梶田純子

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

大学生活の半分は、すっかり世の中が変化し、戸惑いと不安の連続であったと推察申し上げます。それはあなただけではなく、ほぼ世界中の人が、同じ思いで生きた日々だったことも忘れないでください。

このコロナ禍とその後は、新たな時代の到来です。ポストコロナ期の世界は、一気にAI やICT 化が

進むでしょう。教育現場も、電子黒板、タブレット使用、電子教材とめまぐるしく変わっています。あなたたちに求められるのは、デジタルに強い人、発想の転換かもしれません。

しかし、デジタル、機械が全てではありません。コミュニケーションの必要性が大事だと実感しておられると思います。AIに取って代わる仕事ではなく、人に要求されている仕事と言えば、コミュニケーション力を必要としていることではないでしょうか。これから、あなたたちが社会に出て、教員になった時、デジタルリテラシーだけではなく、人の気持ちの大切さ、人にしかできないことを生徒たち、若者たちに伝えていってください。

あなたたちがこれから飛び出す社会には、この1年よりさらなる困難が待ち受けているかもしれません。しかしながら、人間には失敗や経験から学ぶ力があります。（AIにもありますが）「何ができるか」「どうやれば、できるか」を考え、最良の結果を求めていってください。

欧米人がよく引用する新訳聖書（コリントの信徒への手紙）の一節に「（神は）あなたが耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道を備えてくださる」と書かれています。渦中にある時には、辛くて死んでしまいたい、と思っているかもしれません。ですが、乗り越えた時には、きっと想像もできなかった成長したご自分を見ることができると思います。

それを信じて、素晴らしい人生を送ってください。



## 「啐啄同時」

外国語学部 教授 玉井久之

ご卒業おめでとうございます。春から教壇に立つみなさんに、私が大切にしている言葉を贈りたいと思います。

仏教に「啐啄同時」という言葉があります。「啐」とは、ひな鳥が孵化するときに、卵の殻を内側から突き破ろうとする動作のことです。また「啄」とは、親鳥がこのようなひな鳥の動作を見て、外から卵を突いてひな鳥の誕生を助けようとする動作のことです（ちなみにキツツキを漢字で啄木鳥と書きます）。つまり「啐啄同時」とは、生まれゆくとするひな鳥の意志と、それを助けようとする親鳥の意志がかみ合っ初めて「誕生」が成就することを表わしています。両者のタイミングが合う

ことが大切で、「啄」が遅すぎたり、逆に早すぎても「誕生」につながらないでしょう。

「啐啄同時」は教育の本質を突く言葉です。親鳥がすべての卵を温めるように、教員は普段から生徒全員に関心を払ってなければなりません。また生徒が「学んでいこう」「伸びていこう」とする「啐」のタイミングも、その回数も、その方向性も生徒によりまちまちでしょう。しかしどの生徒にもその生徒独自の「啐」があり、それを適格に捕らえ、「啄」、つまり適切な指導を与えることが生徒の成長につながるのだと思います。

教室に入る前に、気を落ち着かせるためにも、「啐啄同時」とつぶやいてみてください。健闘を祈ります。



## Congratulations on getting into your new life.

英語キャリア学部 教授 村上 明子

関西外大での4年間は充実したものでしたか？

皆さんが **Go for it** を目指して日々努力を続けた結果が、今、皆さんの眼前にあります。その美しい光景がこれからの長い長い歩みの先にも継続して展開していくことを願ってやみません。時にはそれは哀しい色に変わり、暗く重い景色に転じるかもしれません。しかし、これまで皆さんが歩みを進める中で学んできたように、時間はひと時として同じところにとどまってはいません。悲しい色も輝くような喜びの色に、暗く重い景色も飛び上がるような幸せな景観に必ず変わる時がきます。日々の歩みを信じて、誠実に、明るく、優しい気持ちをもって新生活に飛び込んでいってください。そして、皆さんの先輩方が築いてきた関西外大生への信頼をさらに堅牢で確固としたものにし、今度は後輩たちにプレゼントしてあげてください。関西外大に育つ果実の、未来永劫に至る豊かな実りを心から祈念しています。



## こんな時代だからこそ、仲間と共に力強く前へ！

英語キャリア学部 教授 森田健宏

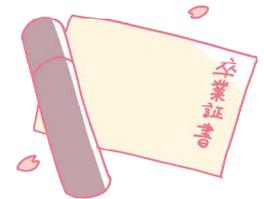
みなさん、ご卒業おめでとうございます！

本来ならば、笑顔いっぱい、みなさんと語り合いながら晴れの門出を祝福したかったのですが、このような状況ですので、マスクの中で口角をいっばいに上げて心から喜んでいたいと思います。

さて、世の中は時代がさらに進み、ICTを使った生活が当たり前の時代になってきました。

学校の教員になるみなさんは、小学校から高等学校まで児童・生徒に一人一台のタブレットが本格的に支給され、個別に最適な学びと協働的な学びといういずれの学びも指導、支援できるような職能が求められるようになります。おそらく、最初はとまどうことも多いかと思いますが、大学でのハイブリッド型授業での受講経験を活かし、様々な子ども達の学習ニーズに応えられるよう、教員仲間と創意工夫した成果を共有しながら助け合って、未来社会の担い手をしっかりと育て上げてほしいと思います。また、教職課程を受講し続けながら、教員以外の進路を選択した学生の方についても、ぜひ、家庭から、あるいは地域社会の中で、これからの時代に生きる子ども達を応援してください。開かれた学校づくりを進めている地域の各種学校では、様々な分野で活躍するみなさんの知見や職能も大切な学びとなります。ぜひ、社会で生きる楽しさや喜びを様々な形で伝えてあげてほしいと思います。

最後に、どんなに技術革新が進んでも、基本は「人」です。職場や地域、家庭など、あらゆる仲間を大切にしながら新しい時代を力強く歩んでください。みなさんの今後の活躍を期待しています。



## 魂のミッション

短期大学部 准教授 堅田利明

ご卒業おめでとうございます。

今日はひと区切りを迎えられる日ですね。今どんなご心境でしょうか。

精神科医のヴィクトール・フランクルは、「仕事の大きさが問題なのではない。その人が自分なりの使命をどれだけ果たしたかどうかが重要なのだ」と私たちに人生の意味について問いかけます。これから歩いて行こうとされる道は、他の者にとって代わることのできない貴重な歩みによって刻まれていきます。道の途中で新しく出会われる人達に、行き先が違うために離れてしまうことになる人達

に、移り変わっていく周りの景色に、自身がこれから拾い上げ手にする様々モノの達に、そしてご自身に向けて、感謝の言葉を伝えることができるなら、それは素敵なことではないでしょうか。今日がそんなひと時になりますことを。



## “学校で学ぶ”ということ

英語キャリア学部 教授 坂本暢章

卒業おめでとう！本学で学ばれた皆さんが、4月から“学校”という場で活躍されることに大きな喜びと期待を感じつつ、最後にひとつのお願いを伝えたいと思います。

“学校”という場が公的に整えられて今年で150年。ここにきて大きな曲がり角を迎えているようです。例えば、中教審が提言した「個別最適な学び」の考え方には、“ともに学びともに育つ”という日本の学校が大事にしてきた学び方の根本を大きく崩してしまう危険性が感じられます。個性の時代と言われて「みんな一緒はダメ」という風潮ではありますが、個別の学びは“分断の学び”であり、“自己責任”“格差助長”の学びにつながる場合が多いのです。

“学び”は最適で効率的であれば良いというものではありません。“学校”という一つの価値観を抛り所に、先生と子ども達が生身の人間としてふれあい。ぶつかり合い、ゆっくりゆっくり成長していく・・・無駄も多いかもしれませんが、それらも含め“学校”は、とてつもなく豊かで贅沢な空間だと思いませんか？そして、その空間の全てを任せてもらえるのが君たち“先生”なのです。

4月から教壇に立つ皆さん。どうか、子ども達のつまずきや遠回りに付き合ってください。今までの学校が担ってきた“非効率で面倒くさい”価値も大事にする教員になってください。

最後に少し難しいことを押し付けてしまいましたが、皆さんのこれからの人生が彩りの深いものになることを願っています。



## 自分独自の羅針盤を作り、磨く

英語キャリア学部 准教授 山本泰明

卒業、進級おめでとうございます。この2年間のコロナ禍の中で、若い皆さんが様々なチャンスを失ってきたことを本当に気の毒に思います。しかしそんな中でも、めげずに前進し続けてきた皆さんのたくましさをととても心強く思います。失った機会は確かにたくさんあるかもしれませんが、逆境の中でこそ身につけた力も大きい。これからの人生に間違いなく生きてくることでしょう。

卒業生の皆さんの多くは、来月からいよいよ教壇に立つこととなりますね。長く慣れ親しんできた学校の景色も、これまでとは全く違った見え方がするのでしょうか。教育実習や学校ボランティア、その他の勉強や体験をたくさん積んできたので、現場に立つための心と頭と体の準備はきっと万全でしょう。これからの新しいチャレンジを応援しています。

この冊子の名前は「羅針盤」ですが、皆さんにとっての人生の「羅針盤」はどのようなものでしょうか。長い人生の中でこれからたくさんの困難に出会い、迷い、悩むことがあるでしょう。そういったときに、自分の原点を見つめなおす、方向性を確認する、そういった自分独自の羅針盤を、これから年月をかけて作り上げていけるとよいでしょう。その羅針盤の原点が、大学生活で培った「信念」、「経験」、「仲間」であるとよいなと思います。コロナ禍に負けず、皆で頑張っていきましょう。



## 変われるものが生き残る

短期大学部 教授 藤林富郎



ご卒業、ご進級、おめでとうございます。皆さんと出会えて、大変嬉しく、心より感謝しています。ありがとうございました。

さて、この二年間、私たちは皆、新型コロナという地球規模の問題に対峙し、その間、孤独にも耐え、いつこんな生活がおわるの？と、毎日考え続けていました。

同時に、“ニューノーマル”を追求し、マスクや手指の消毒ばかりでなく、それぞれの方法で適応してきました。外大でも、オンライン授業やハイブリッド型授業で、試行錯誤を繰り返しています。

ダーウィンの進化論で言われる「最も強いものが生き残るのではない、最も変化できたものが生き残るのである」という”Survival of the fittest”の実践が求められました。同時に、SDGSの実践が社会のあらゆる分野で求められています。私たち人類は変わるしかないのです。

「過去は自信、未来は希望、現在は勇気」と、我が尊敬する A 先生がよくおっしゃるように、外大での学生生活は皆さんにとって現在と過去になり、勇気と自信になり、今後の皆さんの人生をしっかりと支えてくれます。

”Be a person of grit.” ”Be resilient.” ”Never give up.”を餞の言葉としてお贈りします。

人生、「七転び八起き」です。いつも笑顔でお過ごしくださいね！最後までお付き合い、ありがとうございました。

Appendix: “You can’t please everyone.”

There is only one way to avoid criticism: do nothing, say nothing, and be nothing. アリストテレス



ご卒業おめでとうございます

英語キャリア学部 教授 新坊昌弘

2月20日、17日間の競技期間に幕を閉じた北京2022。これまでと変わらずアスリート達の超人的なパフォーマンスに感動する一方で、昨年の東京大会から引き継がれた受賞者が自らの手でメダルを首にかけるといふ非接触のメダル授与式には、どこか違和感を覚えずにはいられませんでした。未だ出口の見えないコロナウイルスの感染拡大が始まって、2年が経ってしまいました。皆さんの貴重な大学生活の半分も、この状況下で以前の様子とは様変わりしてしまいました。教育実習が実施出来ず、教職への確かな思いを育む機会を奪われた人、その結果、自分のめざす進路を実現出来なかった人、そして、自分の思い描いていた大学生活が過ごせず、悔いを残したままで今日この日を迎えた人もいることでしょう。私もこの2年間、煩雑なblackboardやzoomの操作、膨大なメールへの対応と、毎日の大半をPCに向き合っただけの日々が続く、非接触の社会に疲れ果てたというのが実感でした。

多くの皆さんは4月から社会人になられますが、この「社会」という言葉は、本来、人間同士の共同生活の営みやその場所を指す言葉です。しかし、これだけ長期間に亘って、人間同士の直接的関わりを奪われてしまうと、社会人になることに不安を感じている人もいないのでしょうか。

特に教員になられる皆さんは、正に子ども達と直接関わるのが職務そのものになります。学校には一見これまでと何一つ変わらぬ元気な子ども達の姿があるかも知れません。しかし、このコロナ禍、皆さんが過ごした大学生活と同様、学校の教育活動は様々な制約や制限を受け、子ども達は我慢を強いられています。また、子ども達の中には、この状況下で家庭が厳しい状況に置かれてしまっている

子もいます。そんな子ども達に少しでも楽しい学校生活を送れるよう、先輩教員と力を合わせて教育活動に取り組んでいって欲しいと願っています。

さあ、学校では「今年はどんな先生が来てくれるだろう。」と、子ども達が皆さんを待っています。こんな時だからこそ、明るく、楽しく、元気に教職人生のスタートを切って下さい。

応援しています。



## 書くことです、そして読み続けることです

英語キャリア学部 教授 塚田泰彦

4年間、自分なりに頑張ったことを胸に秘めて、自信を持って社会人としての新たな生活に飛び込んでください。関西外大、ご卒業おめでとうございます。

新しい生活では、職場の特性やシステムに応じて一人一人にその職場のリテラシー（workplace literacy）が求められ、常にその能力の向上が期待されることとなります。リテラシーはもともと読み書き能力のことを指しますが、この能力もデジタル・ネットワーク社会で多様に拡張し変貌し続けています。情報リテラシーも異文化間リテラシーも科学リテラシーも法的リテラシーも金融リテラシーも、様々なかたちでその職場に組み込まれて変化していきます。大学時代には意外としっかりとコミットしてこなかった「書くこと」「読むこと」が常にこうした新たな学びを支えていくのです。まずは書くことです。そして読み続けることです。

教職をキャリアとして選んだ人は、日々の生活での読み書きの比重は一層大きくなっていくと思います。教師こそが進んで言葉を介した主体的な学びの体現者であることが求められているからです。しかし、この読み書きの基本姿勢を堅持する心構えがあれば、多様に繰り出されてくる教育界での現実的要請にも動じることは少なくなるはずで

す。学び続ける教師と一緒に学ぶ学習者の姿こそが一番シンプルで普遍的な教育の姿であり、教師の喜びを支えるものです。このシンプルな学びの姿を最優先すれば、常に前に向かう意欲と希望を学習者とともに手にすることができるでしょう。この学びの互惠的關係は単に教室や学校という世界に閉じることなく、家庭や地域社会にそしてグローバルな世界へと豊かに拡張し続けています。

皆さんの教職への具体的な第一歩がこの豊かな展望をリセットする幸運に恵まれることを願っています。



## 生徒の力を引き出すことが真の教育

短期大学部 准教授 村上裕美

いつの頃から教師が生徒に「教え込む」ことがよい指導だと思われるようになったのでしょうか。江戸時代の寺子屋のように、教科書も、学習の記録を残す紙や筆もなかった時代は、先生が教授する内容を生徒は懸命に覚え、知識を得ることの喜びと、将来の立身出世への大きな期待が学びの動機となる時代がありました。しかし、現代はどうでしょうか？苦勞して手書きで書物や資料を書き写していた時代とは大きくことなり、コピー技術や携帯電話で簡単に写真に収めたり、音声や画像にとって所持できる時代になりました。科学技術の発達とともに、便利な学習環境が整った利点と同時に、だれもが学校で学ぶことができる時代になりましたが、皮肉なことにも学びの喜びが薄らいでいるようにも思えます。情報や教材があふれる環境にある現代の生徒・児童が目を輝かせて学びたいとなる題材は教科書以外にも、国内だけでなく世界中に溢れています。学習指導要領に示された学習内容を尊重しつつ、いかに生徒・児童が目を輝かせる授業ができるのか、この課題に取り組み教員として指導に当たってもらいたいと願います。目を輝かせる生徒は、学ぶ意欲が高まり、自立した学習者へと成長します。「教え込むこと」は親切ではなく成長を妨げることにもなります。つまり教え込むということは、生徒が自分の力で学べないと判断しているのではないのでしょうか。真の教育者としての愛情と優しさとは、一人一人の生徒が持っている可能性と興味・関心を引き出し、その学習過程で必要となる確かな支援を行うことだと思います。その第一歩は、生徒の限りない可能性を信じることから始まるともいます。この生徒の力を引き出すための指導力は教科書の内容を「教え込む」よりはるかに高度で難しい技術が必要です。どうか、教室の生徒・児童があなたの授業が待ち遠しく、目を輝かせて受講することができるよう、生徒の力を引き出せる教員に成長してください。



ご卒業、ご進級、おめでとうございます。

外国語学部 准教授 川村悟

卒業生のみなさん、ご卒業、おめでとうございます。今年度も昨年度に引き続いて新型コロナウイルスの流行によって社会情勢の変化が激しく、ご苦勞されたのではないのでしょうか。遠隔授業を余儀なくされ、学業や教育実習の準備などが思うように進まず、ストレスを感じた方も少なくないと思います。

卒業生のみなさんは教育実習という貴重な経験を積まれました。小学校、中学校、高校、大学と長

期間授業を受ける立場だった方々が、授業を行う側にまわり、これまでと大きく異なる体験をされたことと思います。授業準備に多くの時間を費やし、四苦八苦しながら、一日一日を過ごされたのではないのでしょうか。しかしながら、卒業前にこのような責任が伴う立場を経験できたことは、みなさんの人生にとって好影響をもたらすと私は考えます。実習でご苦労された方々は何かの折りにどのように乗り切ったのか、ぜひ思い出してください。今後、社会人として生活を送るうえで、何らかのヒントになるかもしれません。

在学生のみなさん、ご進級、おめでとうございます。今度はみなさんの番です。社会情勢が変化しても、やるべきことは大きく変わりません。みなさんには前向きにかつ着実に教育実習に向けた準備をして頂きたいと思います。



## 未来へ

英語キャリア学部 教授 山下吉信

ご卒業おめでとうございます。学生生活はいかがだったでしょうか。きっと充実した時間だったと思います。

ところで、光は人間にとってとても大切なものであり、そのおかげで私たちは暮らすことができます。今の世の中、光があるのは当たり前という感覚の中で生活し育ってきたために、ちょっとしたことで「暗い」と不平を言うようになってしまったのではないのでしょうか。「暗い」と不平を言うよりも、進んであかりをつけようとするのは大切なことだと思います。そうです、「待つ」のではなく「自分から動く」のです。「待ち」ではなく「自分から動く」ことで「明るい未来」が見えてくると思います。そして、この積み重ねがいろいろな人から信頼を得ることができるかと確信しています。

人はどんな場所でも、どんな境遇でも、自分なりの花を咲かすことができます。

人と比べるのではなく、自分らしさを発揮することがいかに素晴らしいことか、と同時にその実現はいかに難しいか。“オンリーワン”をめざして前進してください。

そうすれば、あなた方の今後の人生が実りあるものになり、それが、世の中に実りある未来をもたらすと信じています。

周りを見てください。素敵な仲間がいます。そしてあなたたちには、自分が必要とされ、頼りにされている場所、自分で自分のよさを認め「わたしはできるんだ」という気持ちが高ぶる場所があります。どうぞここで得たかけがえのない「宝もの」をいつまでも大切に大きく羽ばたいてください。あなたたちと出会えてよかった。ありがとう。

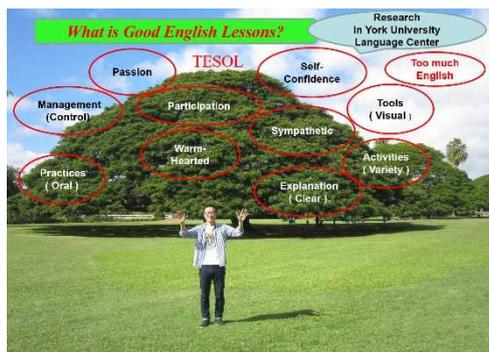
最後に私が心がけたいと思っている言葉をおくります。

「自分の持っているものを活かして、今いるところで、できることをやれ」(セオドア・ルーズベルト)

***Congratulation on your graduation!***  
***“Contribute on Drastic Change for English Education!”***  
***“Make much of Output English Education!”***  
***“Go for your future! Keep it up! Hang in there!”***

英語国際学部 教授 西村 孝彦

Congratulation on your graduation!



You should keep your wonderful memories with your friends to get teachers' license and to be a teacher in Kansai Gaidai. We are very proud of the greatest English teachers' network in Japan. I hope you will contribute on English educational reform in Japan. I want you to make much of “Output English Education”. Don't be afraid of making mistakes!! Let's challenge anything on the job training for the

future.

A few years ago, I visited Hawaii to take the picture of this big trees which is famous for HITACHI Commercial. I hope you will be a great person (teacher) like this big tree with “Sense of Diversity and Flexibility”

English teachers all over the world have been teaching with TESOL Method. It is effective and necessary for you to develop your teaching ability and change Japanese English Education. Japanese government has encouraged to take in TESOL Methodology for English Education in Japan. You will have many chances to study TESOL by being conscious of learning TESOL.

According to the research in York University Language center (England) on “What is a good TESOL lesson?” in the world, English teachers should keep passion, self-confidence, class management power, participation, oral practices, variety of activities, sympathetic power, visual tools, clear explanation, warm-heart and suing too much English. I am sure you can do it and you will contribute on English educational reform in Japan. Go for your future! Keep it up! Hang in there!!



Whatever you do, just keep it real. (常に自分らしく)

Congratulation on your graduation! I wish you good luck.

## 「つながりを創る」

### ～創造力を磨く～

英語キャリア学部（小学校教員コース） 教授 浦嶋敏之

みなさん、ご卒業おめでとうございます！

スポーツを通じて世界平和を構築することを理念に掲げたオリンピック・パラリンピックが開催され、互いにリスペクトし合うアスリートたちの姿から多くの感動を共有できた1年でした。

一方、競技場外では、クーデターや軍事侵攻といったオリンピズムとは相容れない出来事が次々に起こっています。ロンドンオリンピック（2012）でグアテマラに初のメダルをもたらしたエリック・バロン選手（競歩）の言葉を思い出します。多くのメダリストが、仲間へ感謝の気持ちを伝えるなか、エリック選手は「この銀メダルがグアテマラの子供達に勇気を与え、彼らが銃やナイフを置き、その代りにトレーニング・シューズを手にとってくれればいい。そうなったら自分は世界一の幸せ者だ」と語りました。いつの世も、混乱の一番の犠牲となるのは子供達です。このような混沌とした“予測困難な時代”となった今、子供達を取り巻く状況の変化を、意義のある教育活動に変換できる教員の創造力が一層求められます。

教員の仕事（教育の営み）は、人とのつながりを通して子供の生き方を創る仕事です。子供との信頼関係を築き仲間の絆を深めながら、一人ひとりの未来への道筋を創っていくのです。そのためには、子供達を受け止める広い視野や多様な価値観を持ち、創造力に磨きをかけることが大切です。“社会状況の変化”や子供からの“正解のない問いかけ”をしっかり受け止め、共に悩み、一人ひとりの成長の芽に光を注ぐことができる、そんな教員をめざしてください。

“GO FOR it!”



初夏に向かって  
(アジサイの花芽)



い  
っ  
て  
ら  
っ  
し  
ゃ  
い



ご卒業おめでとうございます。

皆さんはこれから社会人として世の中に羽ばたいていきます。

辛いこともたくさんあるかもしれませんが、努力に勝る才能はありません。どんな経験であっても、経験したからこそ見られる景色があり、得られることがあります。どんな時も笑顔を忘れず、頑張ってください。そして、自分の糧にしてください。ご活躍を期待しています。

教職教育センターの職員一同、みなさんをいつまでも応援しています！

またいつでも、教職教育センターに遊びにきてくださいね。

教職教育センター一同



